

高卒認定試験 世界史 A・B イン트로ダクション

1 講座の概要

(1) 講座の概要

この講座では、高卒認定試験の過去問(世界史)を解説していきます。具体的には、問題の選択肢の誤りの指摘や若干の補足事項を解説いたします。補足事項に関しては、高卒認定試験のレベルにあわせた解説をおこなっていきます。ただ、全時代の重要事項を体系的に解説してゆく講座ではありませんので、世界史の初学者には向かない、ということをつけ加えておきます。

(2) 対象

高卒認定試験の世界史 AorB を受験する方で、ある程度基礎ができている方です。

2 予習・復習の方法

(1) 予習について

予め、自力で過去問を解いておいてください。過去問は、文部科学省のホームページから入手できます。

(2) 授業について

授業では、問題の解説をするわけですが、具体的には、①誤りの選択肢が、なぜまちがいののか？という解説②重要事項に関する補足説明 の2つを行ないます。みなさんは、適宜必要なことは、問題の余白部分等にメモをするようにしてください。スタイルとしては、あくまで「過去問解説」ですので、板書はあまり使わず、口頭で説明することが多いです。したがって、適宜動画を止めながら、必要事項はメモするなどしてください。

(3) 復習について

①予習の段階で解けなかった問題については、根拠を自分で言えるようにしながら、正解を導く という作業を繰り返してください。

②授業の中で、板書を用いてまとめた事柄については、その内容を覚えてください。

3 傾向分析

◆基本的に4択問題です。

◆地図問題は、例年3問ほど出題されます。したがって、満点を目指そうとしないのであれば、地図問題については、“捨て問”としてもよいと思われます。(ただ、世界史の勉強する上で、地理的感覚は重要なので、地図をみながら勉強した方がよいです。)

◆設問形式としては、(A)用語選択問題 (B)一文問題 (C)地図問題 に大別されます。問われ方としては、「次の①～④の中から適切なものを選び」の形式のみです。

◆基本的に4択問題ですので、正解の選択肢以外の3つは誤りです。誤りのタイプとしては、(A)時代がちがう(設問では、19Cの出来事 となっているのに、選択肢の出来事は5C といった感じ) (B)場所がちがう(設問では、中国の出来事 となっているのに、選択肢の出来事はヨーロッパでおきたこと といった感じ)

(C)時代も場所もちがう(AとBを組み合わせたパターン)の3つがあります。そして、(C)のパターンが最も

多いです。

◆どの程度まで暗記すべきか？—まずは、教科書の太字の語句を覚えることを目指すとよいです。ただし、その際には、おおよその時代(何世紀の出来事か?)と場所を確認しながら、勉強をすすめるとよいです。

◆年号は覚えるべきか？—実際に年号が設問として問われることはないですが、年号を覚えた方が有利であることは確実です。この授業では、最重要の年号については、いくつか紹介していきます。

★世界史は「覚えていれば得点がとれる」科目です。みなさんは、貪欲に、自分の知らなかった知識を覚えていくようにしましょう！その作業を繰り返すことで、きっと本番でも高得点がとれるようになると思います。

それでは、はじめましょう！